



日立社友クラブ 茨城支部

茨城支部 便り
第 81 号
2022年10月20日
編集兼発行人
谷口 正俊

HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI HITACHI



銀杏のトンネル

撮影者：伊藤 泰生
撮影日：2021年11月3日
撮影場所：茨城県立歴史館(水戸市)
撮影余話：歴史館は偕楽園に隣接し、茨城県の歴史に関する博物館で旧水戸農業高校や旧水海道小学校校舎の県指定文化財が当時の姿に復元されている。
この日は企画展見学の折に、黄葉が始まったイチョウ並木を散策した。陽の光を受けた葉っぱは輝いていた。晩秋には黄金色となり、「歴史館いちようまつり」には夜間ライトアップが実施される。熟した銀杏は靴裏に付着し、強烈な悪臭に閉口する。

リレー随筆 (81) 学舎(まなびや)の四季彩々 荒木 昌三



私の第2の人生は僅かでも社会貢献をと思い、小中学校の理科授業の支援を始めた。その後、「日立理科クラブ」が設立され、支援の輪が大きく広がった。会社生活に比較すると学校の授業支援などはと高を括っていたが、

よる年波には勝てず、早朝からの学校授業も重なり、すこし体調を崩した。齢も八十路となり、現在は教材作成など後方支援を分担させていただいている。俳句も多少たしなんでおり、学校の四季彩々の思い出を俳句にしてきたこともあり、その紹介も含めて老いの学園生活(?)を楽しく振り返りたい。

春になると、子供たちは進級し新しい先生が担当される。**黒板の月日新たな新学期**
春は桜ですが、近年は桜の開花も早く、入学時、始業時には桜の盛りは過ぎている。桜が過ぎても飛花落花は学校のピオトープなどに漂っている。

ピオトープ2重3重なる花枝
若葉がまぶしい。若葉風先生笑えば子ら笑う
新緑も濃さをまし、初夏となる。
校庭に風薫る子ら馳せ集う



小6「月と太陽」の授業を支援
体育館を宇宙空間に見立て生徒に説明中の筆者

日立社友クラブ茨城支部ホームページ
日立理科クラブホームページ

温暖化もありすぐに盛夏となる。
片陰を並び下校のランドセル
夏休みは子らは自由研究などで忙しい。
学園に子らの声なく敗戦忌

夏休みが終わると、再び、学校は賑わう。理科室は冷房はなく窓は解放されている。オニヤンマが静かにゆったりと理科室に侵入、全員が注目、理科実験は中断。



小6「生物と地球環境」授業風景

オニヤンマ理科実験は中止せり
オニヤンマは秋風を連れてくる。
子ら前に強がり演ず小春かな
学舎に山粧(よそお)いし入り日かな
秋も短くすぐに冬が来る。日立地方は地震が多く学校でも度々経験した。

理科室の骸骨ゆるする冬の地震(地震；「ない」と読む)
先生の声は冬の澄みきった空気によくとおる。
寒紅を控えし教師の声高く(寒紅；冬の口紅季語)
コロナ前は給食はにぎわい、度々同席した。

給食の賑わう窓に冬桜
今はクラスの机は衝立が立てられ、全員、黙食している。黙食を辞書では禅宗の食事時のことと記され、コロナの黙食は辞書にはない。早く解放され、賑わいを戻ることを願っている。
校庭の梅もほころぶ。

黒板のチョークの音や春隣り
これらの将来を背負う子供たちがよき社会人となり、社会に貢献してくれることを願うのみである。
若者に対し、地球環境など将来の心配事は山積しているが、体調にも配慮し、私もできる範囲のことを続けてゆきたい。

如意不如意自然に託す八十路かな

<http://shayuu-iba.la.coocan.jp/>
<http://www.hitachi-rika.sakura.ne.jp/>

尺八付き合い半世紀

「自分にとっての音楽」探し

伊藤 裕



1 事のはじめ

音楽を聴くことは好きだった。学生生活を始めた頃FMで聴くのはクラシックだったが、仲間の影響で分野を広げていった。NHK FMで東京芸大・小泉文夫先生の番組「世界の民俗音楽」があった。まるで異なる南インドの音楽、バリ島のガムラン等興味広がった。「自分にとっての音楽とは？」との疑問が湧き上がった。

大学の研究科に進んで間もなく、新聞社文化センターの都山流尺八講座を知り入門した。そのころ後の人間国宝山本邦山師が流派を超えて尺八三本会を結成し、また和楽器編成合奏団の日本音楽集団が結成され、洋楽出身作曲家への委嘱曲を発表するなど、新たな邦楽創作の機運が盛り上がっていた。「こんな曲を自分も」とのめり込んだ。2年間、名曲「千鳥の曲」を目標に励み初伝を頂き就職先に向かった。

2 尺八の楽器と音楽

真竹の根元から上部を材料とし、八寸管は長さ一尺八寸、先端部にエッジ付き歌口があり、指孔は前面4孔裏側1孔で12音階2オクターブ強の音域である。全部塞いだ音は洋楽のDに当る。音が出る原理はリコーダと同じであるが、尺八は自然の竹材で製管され、奏者の息当たりもまちまちで「音が出るまでが大変」と言われるゆえんである。複雑な音を出せる可能性が高く面白い。八寸管と六寸管が一



上 六寸管(裏) 下 八寸管(表)

般に用いられる。一寸刻みで調子の異なる管が製管されている。仏教の法器として使用制限されていたが、明治以降一般に使われるようになり発展してきた。尺八の独奏・合奏曲を本曲、三絃等の古典曲に尺八の旋律を加えた曲を古曲、洋楽の影響も受けて大正以降に作られた曲を新曲と呼んでいる。今では様々な分野との共演も進んでいる。

昭和46年全社集合教育最終日に配属先が発表、思いもよらず日立工場寮は一室二人、3ヶ月間の現場実習は海岸製造部だった。吹きたい一心で周りから揶揄されようが練習した。現場事務所の控室で昼休みにも吹いた。なんと偶然、その事務所に都山流の渡谷謙山師がいて声を掛けられ、日立会邦楽部に入部した。寮対抗行事や小平会館での文化祭など活動が活発であった。平和通り桜祭の特別舞台へ出演したこともあった。

3 日立工場配属から師範試験まで

仕事は核融合実験装置の建設を担当した。ちょうど国の計画が始まる段階で、設計、R&D、そして実機受注と進んでいった。すぐに「尺八どころではない」状況に追い込まれた。演奏会等で急ぎ尺八を取り出すと「カビが」との事態もあった。昭和54年師匠が本社転勤となり、皆伝を置土産に残してくれた。その後は地域の同好仲間への練習に参加させてもらった。指導者は日本原子力研究所(以下原研)の方であった。本社にも邦楽部が有り尺八演奏家の森田柁山師が指導されていた。両師匠とはまだ緩いつながりであった。



日立会文化祭(右から4人目 S48頃小平会館)

日本の古典芸能や習い事では家元制度があり、弟子の技量に応じて免許を授けている。都山流では准師範・師範の試験を課している。仕事の関係で30代後半と40代半ば2度におたつて原研(当時)に向向となった。これを機会に正式に弟子入りし、准師範試験受験の指導をして頂いた。課題は筆記と実技である。筆記では、楽理、作譜(作曲)等で、特に難しかったのは試験官の吹くフレーズを譜面に書取る事であった。弟子には厳しい人で、音程、リズム、癖など厳しく指導され、その甲斐あって昭和59年暮に准師範の免状を頂いた。その後師匠が転勤不在となるが、社内や地域の仲間と演奏を楽しんでいた。十年余を経過し仲間が次々と昇格するのを見聞きし、羨望と焦りを感じていた。2度目の原研出向を機に師範試験受験を決意し臨んだ。試験は実技のみで、本曲、古曲、新曲(八寸管、六寸管)の4課題。課題ごとに可否判定され全ての合格が必要である。一課題ぐらいいはと期待していたが、ことごとく落第。意気消沈のところで森田柁山師が声を掛けてくれた。指導を受け2年後再挑戦、その頃仕事で敦賀に単身赴任中だった。借用中の現場事務所で昼休み中、また宿所でも練習した。京都で古曲と新曲を、半年後、富山で本曲を合格し、平成11年やっと師範の免状と竹号・

4 演奏会など

都山流県支部演奏会にはほぼ皆勤で参加、今年7月に実施できた。地域の三曲協会行事等にも参加するようになっている。日立会演劇部OBの舞台に共演したこともあった。最も注力しているのは、森田師の柁山会演奏会である。プロの弦方(箏、三絃)の助演で、弟子は一人吹きが原則である。平成9年初めて出演し、以後連続出演している。年一曲を仕上げ大変な力になっている。舞台での緊張感、演奏後の解放感は今でも変わらない。初舞台が終わって「プロは聴衆を魅了、素人は自分が感動する」自分が感動する」との想いに至った。この感動が半世紀に及ぶ尺八との付き合いの原動力となっている。4年程前初めて弟子一人を預かった。弟子は学生時代に尺八を手掛けたが中断、昔の仲間からの声で「早く職格を」と希望、昨年暮、准師範に受かった。弟子をとって良かったことは私自身の取り組み意識が上がったことである。偶然にも恵まれ、多くの師匠、絃方の先生、同好仲間を支えられ大変感謝している。今後とも「辞めない」の心意気で取組んで行くつもりである。



3年ぶりの柁山会演奏会

伊藤 裕氏 連絡先

〒310-0851 水戸市千波町 1378-11
電話:029-241-9685
メール: dk7y-it@asahi-net.or.jp

同好会行事に参加して



「卓球クラブ」

後藤 道宏

今春 65 歳になり、卓球クラブに入部しました。1 年前に見学した際、コロナ禍にも関わらず、明るく楽しそうな雰囲気があり、入会を決意しました。

中学から約 5 年間卓球部に属し、かつ日立に入社してから 5 年間は日立会卓球部に属し、更に 40 歳から 20 年間は日立会卓球部のサポートに関係しておりました。気づいたら人生の半分は卓球に関わってきたこととなります。卓球クラブでの毎週 3 時間の練習で年間約 150 時間、今後 15 年間続けたとして 2300 時間。20 代までの練習時間の 1500 時間を加えると 3800 時間となります。一流レベルに必要と言われる 1 万時間には程遠いですが、継続は力なりを信じて頑張っていきたいと考えております。月日は気持ちに関係なく過ぎていく中、卓球クラブの仲間たちと楽しく汗を流し、できる限り対外試合に挑戦し、そのたびに敗戦の口惜しさを味わい、時には勝利の歓喜を味わう。これからもスマッシュの爽快さを求めつつ、持続可能な生涯スポーツ・卓球を続けていきたいと考えている今日この頃です。
“ピンポンとラリーつないで光る友”



「PC 基礎講座」

高木 宣輔

緑が眩しく輝くグリーンを見ながら、日立オリジンパーク内の茨城支部大みか拠点に、PC 基礎講座に出席のため足を運ぶ。講座では、パソコンソフトの取扱いや操作などに関する事前質問への回答、講師が選定した著名

パソコンソフト利用に関する日経パソコンなどの取説の紹介など、安田講師の丁寧な解説説明が行われる。小生現役時代も、業務遂行にパソコンを多く利用していたが、パソコン操作は、ほとんど口操作(他人に指示して目的達成)で済ませていたので、この基礎講座は、新しい知識が多く得られ大変勉強になる。また、講義開始前の社会トピックスの説明もためになり、昼食時の出席者同士のコミュニケーションも、本講座へ出席するメリットと感じており、今後も継続して参加していきたい。安田講師には健康に留意され、永く本講座の講師を続けていただきたいと願っている。



「旅行会」

溝口 忠憲

旅行会発足当初から数々の行事に参加してきました。写真が趣味の小生にとって旅行会で訪れる場所は、四季折々の風景や、地方のお祭りや風物詩など絶好の被写体として楽しむことができます。「三春の滝桜」や「古河の花桃と権現堂堤の桜並木」、「潮来のあやめ園と水郷」など数え切れません。中でも最も印象にあるのが迫力満点の相馬野馬追の甲冑競馬です。その時撮影した第 4 コーナーを競り合って駆け抜けていく人馬を撮影した 1 枚の写真が日本写真家協会(JPS)公募展に入選したことが嬉しい出来事でした。しかしながら過去 3 年は新型コロナの感染拡大で旅行会も休業状態にならざるを得なくなりました。少し落ち着いた昨年秋に「奥会津霧幻峡と会津ころり三観音巡り」のバス旅行を久しぶりに楽しむことができましたが、第 6 波、7 波の襲来でさらに休眠状態を強いられていることがとても残念です。

支部からの お知らせ

日立社友クラブ理事会・茨城支部役員会報告

*第 71 期第 3 回日立社友クラブ理事会報告

- ・本部会員総数は 7,510 名。
- ・2022 年度社友クラブ総会は、会員の安全・安心を優先し中止する。

*2022 年 9 月茨城支部役員会報告

- ・9 月 15 日(木)大みか拠点にて実施。
- ・支部入会申込者 12 名の入会が承認された。9 月 15 日現在 956 名となった。(昨年同期比 5 名減)
- ・2022 年 9 月 9 日現在の経費実績を報告し承認された。
- ・新大みか拠点の利用規則の改定を報告し承認いただいた。改訂内容は以下の通りである。
 - ①新大みか拠点利用規則：ロビーへの無断立ち入り禁止を削除
 - ②退出時の点検表：空気清浄機の設置に伴う利用と退室時チェックの追加
 - ③新大みか拠点のご案内：支部会員の第 1 駐車場利用許可に伴う変更

茨城支部新入会員勧誘のお願い

会員の高齢化に伴い会員数が減少方向にあります。どうか皆様から OB 会等で各同好会の活動を PR していただき、親睦の和の拡大にご協力をお願いします。

「会員投稿」、「リレー随筆」執筆者募集

支部便りの「会員投稿」、「リレー随筆」の執筆者を募集しています。自薦、他薦は問いません。執筆者候補を中村浩三(kozo@nakamura.email.ne.jp)まで連絡をお願いします。

年会費納入お忘れの方へお願い

会費(同好会費含む)の納入をお忘れの方には、個別にその内容を別紙にてご通知していますので、ご確認の上、納入くださるようお願いいたします。

訃報 誠に残念ですが、苦楽を共にした次の方がお亡くなりになりました。衷心よりご冥福をお祈りいたします。

金澤	義久	令和 04 年 6 月 28 日	満 84 歳
成田	博	令和 04 年 7 月 2 日	満 83 歳
植松	誠	令和 04 年 7 月 4 日	満 86 歳
河原	愈	令和 04 年 7 月 12 日	満 80 歳
山口	重幸	令和 04 年 7 月 21 日	満 82 歳
横嶋	光夫	令和 04 年 8 月 26 日	満 97 歳
阿部	富八	令和 04 年 9 月 29 日	満 82 歳

同好会の行事ご案内（11月～1月）

1. 第91回歩こう会【赤塚、大塚池を歩く】

赤塚駅北口を出発し、寺社を巡り、そして茨城百景の一つである赤塚、大塚池の周囲を歩き、駅へと戻ってきます。

- ・開催日：11月11日(金)
雨天時11月18日(金)
- ・集合：赤塚駅北口 午前10時10分
- ・コース：赤塚駅発→俊澄寺→正一位稲荷大明神→白山弁財天→妙真寺→大塚池公園(昼食)→呼鳥橋→赤塚駅着(平坦地 約6.1km)
- ・持参品：弁当、飲物、マスク、雨具など
- ・会費：200円(非会員500円)
- ・申込締切：11月4日(金)
- ・申込先：小野瀬 秀夫
Tel/Fax：029-282-4124
E-mail：h1941.0830.onose@tenor.ocn.ne.jp

2. 第84回研修会【烏山・馬頭方面散策】

烏山の洞窟酒蔵、山あげ会館、馬頭の隈研吾氏設計の馬頭広重美術館、他を見学します。皆様の参加をお待ちしています。なおご家族同伴での参加も歓迎します。

- ・開催日：11月25日(金)
- ・集合：大甕駅前
(常陽銀行旧大みか支店) 7:00
茨城交通日立南営業所
(旧日立電鉄南営業所) 7:15
- ・帰着：大甕駅前 16:45頃の予定
- ・会費：8,000円予定(バス、昼食代、他)
- ・募集人員：先着40名(20名以上の参加で実施)
- ・申込締切：10月28日(金)
住所、氏名、電話番号を連絡下さい
- ・申込先：奥村 清
Tel：090-1252-7396、Fax：0294-36-0308
E-mail：kiyoshi-okumura@net1.jway.ne.jp

3. 定例行事予定一覧（開催日・場所・時間などは各グループより、別途茨ネット等により連絡いたします）

グループ名	連絡先	実施予定日(曜日)			場 所	時 間	備 考
		11月	12月	1月			
野鳥・自然観察グループ	藤原延弘 0294-34-4039 ntit.fjwr@nifty.com	21(月)			小山ダム	9:00～12:00	参加費：¥300/回 原則雨天中止
			19(月)		久慈川河口	9:00～12:00	
				16(月)	ひたち海浜公園	9:00～12:00	
囲碁の会	日立地区 真鳥岩男 0294-74-5285 sp8k8z59@lake.ocn.ne.jp	14(月) 25(金) 28(月)	12(月) 大会 19(月) 26(月)	16(月) 27(金) 30(月)	大みか拠点	9:30～16:00	参加費：¥100/回 大会：¥1000 (昼食費含む)
	勝田地区 七海 清 029-273-8450 fwny8718@nifty.com	17(木)	15(木)	19(木) 大会	大島コミュニティセンター	9:00～	参加費：¥200/回 大会：¥700
料理教室	並木慎一郎 029-283-1476 s-namiki@themis.ocn.ne.jp	28(月)	26(月)	30(月)	らぼーるひたち	9:45～	参加費：¥1500/回
卓球クラブ	村上勝雄 0294-24-2430 mkattyan@herb.ocn.ne.jp	2, 9, 16(水)	7, 14, 21(水)	4, 11, 18(水)	会瀬体育館	9:00～12:00	参加費, 会場費等 まとめ：¥4500/年
デジカメクラブ	溝口忠憲 029-219-6576 mizogut@beach.ocn.ne.jp	7(月)	5(月)	9(月)	大みか拠点	10:00～15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む
写真五七五	細江 徹 0294-42-9126 tohru92@road.ocn.ne.jp	4(金)	2(金)	6(金)	大みか拠点	9:30～13:00	参加費：¥500/回 昼食別途
PCグループ	基礎講座 安田 出 0294-37-1959 yasuda@i.email.ne.jp	—	—	—	大みか拠点	9:30～15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む
	勝田地区 佐々木六漏 029-275-2567 sasak6318@nifty.com	22(火)	27(火)	24(火)	ひたちなか市ワークプラザ	13:15～16:00	参加費：¥500/回
	Python講座 安田 出 0294-37-1959 yasuda@i.email.ne.jp	—	—	—	大みか拠点	9:30～15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む

注) 旅行会(連絡先；溝口忠憲)は開催が不定期なので、茨ネットを通じて開催をご案内しています。

第18回デジカメ写真展のご案内

今秋もデジカメクラブ、写真五七五グループ、野鳥・自然観察グループ合同の写真展を開催します。四季折々の風景や風物写真、俳句を添えた写真、近隣で観察される野鳥写真など多数展示されます。

- ・日時：11月15日(火)～11月19日(土) 9:00～17:00
(最終日は15:00まで)
- ・場所：多賀市民プラザ 1階ギャラリー
多数の皆さんのご来場をお待ちしています。

編集後記 荒木さんの小中学校の理科授業支援活動を通じての、日本の未来を切り開く子供たちへの期待、趣味の俳句での学園風景、自分の思いを楽しみながら活動されていることに対して敬意を表します。

伊藤さんの尺八付き合い半世紀を読んで、尺八の楽器と音楽の原理、スキル、歴史を学び、その奥深さを感じました。その音色の素晴らしさに日本人の原点に繋がる音という印象を持ちました。改めて現役時代の仕事との両立、頑張りましたね。

谷口 正俊